

日本骨髄バンクの現状（平成 19 年 7 月末現在）

	6 月	7 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,435	2,878	284,775	360,014
患者登録者数	210	195	2,326	23,203
骨髄移植例数	89	85	-	8,541

20 歳未満のドナー登録者数
 7 月 132 人
 合計 5,709 人（17 年 3 月～）
 51 歳以上のドナー登録者数
 7 月新規 90 人
 延長 177 人
 合計 7,951 人（17 年 9 月～）

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 将来展望に関する検討会議報告

7月28日に第10回「将来展望に関する検討会議」が開催されました。本会議では、本年3月以降5回にわたってコーディネートの課題を議論してきました。

移植例数は平成18年度は963例に達しましたが、近年、移植例数および各行程のコーディネート件数が飛躍的に増加しており、患者登録から移植までの期間の中央値が、平成18年度は157日と前年度に比べて7日延びる結果となりました。これらを踏まえて、骨髄採取の問題、確認検査および調整医師の問題、コーディネーターの問題を中心に議論され、今後の方向性が示されました。いずれも難しい問題であり、特効薬的な対策を早急に実施できるというものではありませんが、骨髄移植を必要とする一人でも多くの患者さんに骨髄液を提供するという財団の使命を果たすため、安定的かつ質の高いコーディネートを行う体制整備が急務であるとされました。

なお、今後は三番目のテーマとして、普及広報活動のあり方について議論をしていく予定です。

2 財団契約職員の正職員化について

7月20日に開かれた第4回常任理事会において「在職3年以上の契約職員の正職員登用」について審議され、9月からの実施が決定しました。

現在、新規職員の雇入れはすべて契約職員で、正職員でまかなうべき職種を契約職員の採用・配置で対応しています。しかし、期間を限らない財団の事業の実施において、それを担う職員が期間限定の契約職員ということに合理性は見出せません。また雇用不継続に対する不安を原因とする退職者も多く、財団の経営上の大きな問題となっています。

以上に鑑み、職員のモチベーションを向上させ、定着化を図る観点から、契約職員を本来の雇用形態である正職員に3年の在職条件で転換することとします。なお、正職員と契約職員の給与体系の違いはなく、退職金と契約満了一時金の違いのみです。

3 コーディネーター養成研修会に218名応募

コーディネーター養成研修会の受講者募集に対して、全国から218名の応募がありました。多くの方にご応募いただきありがとうございました。また募集記事の掲載等にあたり、新聞社、ボランティア団体、地方自治体、その他各方面の方々にご協力いただきましたことに御礼申し上げます。

今後は、応募者の中から選考された受講者に対して東京での集合研修、各地区における実地研修等を行い、平成20年4月からのコーディネーター活動開始を目指します。

4 18年度決算報告への御疑問について

18年度決算報告についての御疑問(ボランティア団体会報上の記述)に対し、以下の御説明書をお送りしました。

1. **要旨** / 貸借対照表の負債の部に賞与引当金として 2104 万円が計上されています。かつて財団の決算で賞与引当金が計上されたことはありません。3月時点の補正予算にも計上されていません。民間企業なら利益隠しと見なされて、場合によっては脱税、加算税の対象です。この賞与引当金に対して、財団執行部からは何の説明もありませんでした。これは「黒字隠し」と見られても仕方ないかも知れません。黒字を隠すために、または支出を大きくするための操作がおこなわれたのではと勘ぐる人もいます。
2. **説明** / 企業会計の手法を導入し、財務内容の開示を充実させるために、平成 18 年度に公益法人の会計基準が変更となりました。賞与引当金についても、費用と収益の適切な期間対応を図り、法人運営の効率性の的確な把握を行うことを目的として、翌期に支給する職員の賞与のうち、支給対象期間が当期に帰属する支給見込額について計上が必要になりました。これは平成 18 年度の決算にあたり公認会計士から指摘を受けたことから、3月の補正予算には反映できませんでした。この点につきましては、6月の常任理事会および理事会・評議員会(いずれも公開)において説明を行い、それぞれ承認をいただいております。「黒字隠し」ではなく、「操作」も行っておりません。なお、賞与引当金は、初めて計上される平成 18 年度では支出増となりますが、平成 19 年度には実際に支払った賞与の金額から、賞与引当金の金額を差し引いた金額が賞与として支出計上されるため、実質収支には影響ありません。

5 月間区分別ドナー登録実績と骨髄バンク支援イベント

7月の区分別登録実績 各地のボランティア団体等の協力のもと行われているドナー登録の区分別実績は、献血併行型登録会/1297名、献血ルーム/1168名、集団登録会/257名、その他/156名でした。

バンク支援イベント 9月は骨髄バンク及び白血病を重要テーマとする演劇が相次いで上演されます。

2001年、同時多発テロ直後、米国から日本に緊急搬送された骨髄液。これに関わった人々の感動の人間ドラマを描いた「IMAGINE 9.11」が9月6日(木)より都内で公演されます。会場では骨髄バンクのPRも行われます。

本公演のお問い合わせ先：「IMAGINE 9.11」制作実行委員会 TEL03-5327-3353

「Musical フレンドシップ-約束-」が9月25日(火)から上演されます。米国での実話をベースに命の大切さ、友情の素晴らしさを謳った同舞台は、東京公演に先立ち、日中国交正常化35周年として中国・大連公演(9月21、22日)も行われます。

本公演のお問い合わせ先：劇団 絵生(えき) TEL03-5427-1822

6 財団の人事異動について

8月15日付にて人事異動がありました。主な異動は以下の通りです。大久保英彦(広報渉外部 部長)、松園正人(総務部 参事兼総務企画チーム チームリーダー)、折原勝己(広報渉外部 参事)、千葉純子(広報渉外部 広報チーム チームリーダー)、桜田憲二(関東地区事務局 主幹(地区副代表))。

7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開	9月5日(水)17:00~ 廣瀬第1ビル2階会議室
将来展望検討会議	公開	9月16日(日)15:00~ 廣瀬第1ビル2階会議室